




ワークショップは、島のおじい、おばあともちの交流の場ともなりました

一年かけて、おじいやおばあちが中心となつて、池間島の魅力を発見してききました。

キビ刈りの収穫も終わり、いよいよわずんの季節がやってきます。デイゴの花もほころび始めたようです。  
さて、今回のすまだていよりは『池間島まるごと暮らしのミュージアム特集号』。美しい海とイーヌブーに代表される池間の豊かな自然、海洋民族としての歴史や暮らしの文化を、観光事業に生かしていこうというプロジェクトです。そのためには、まず、池間島の素晴らしい宝を、島の人々がよく知ることが大事だと考え、4回のワークショップを開催。島の高齢者から昔のイーヌブーや暮らしの様子を聞き、今のイーヌブーの自然を考え、島の昔ながらの料理を学び、民泊の修学旅行生と畑体験をし、



発行者  
NPO 法人いけま福祉支援センター  
電話：75-2870

## 池間島まるごと暮らしのミュージアム特集号 ～平成24年度の出来事とこれから～



おじいとおばあともちと……島の未来を作ろう

この一年、池間島の高齢者とこどもたちが、同じテーブルにつき、ワークショップを重ねてきました。こどもたちにとっては、おじい、おばあから聞く昔の島の暮らしやイーヌブーの様子は、とても新鮮だったようです。

食のワークショップでは、池間でとれる野菜や魚で作る料理が財産であることを再認識。この島の底力を実感しました。民泊の修学旅行生たちの力を借りて、耕作放棄地を再生させるプロジェクトも進んでいます。島のこどもたちと修学旅行生と一緒にサツマイモを植える作業も体験しました。

活動をとおして、みんなが気づいた池間島の魅力と可能性を具体的な形にし、日本中の、いや、世界中の人々に伝え、池間ファンを増やしていく。それがわれわれの次のステップです。おじいとおばあともちと、みんなで知恵を出し合い、力を合わせる未来づくり。その過程もまた、島の宝であるはずです。

池間島暮らしツーリズム協議会

会長 奥原正美



# 24年度活動の成果

これまで4回のワークショップをおこなって、得られたことをまとめてみました。

## ◇年代を超えた交流と問題意識の共有

おじいやおばあたちと、こどもたちが同じテーブルについて話し合うことで、交流が生まれました。また、昔と比較することで、今抱える問題点が明らかになり、みんなで共有することができました。おじいやおばあにとっては、昔の池間を思い出して話をする、大切な機会となりました。

## ◇こどもたちが池間を知るきっかけに

昔のイーヌブーや島の暮らし、昔ながらの食べ物など、池間についても知らないことがたくさんありました。また、このまま放っておけば、イーヌブーは消滅してしまう現状に危機意識を持つきっかけになりました。

## ◇小中学校と地域との交流

ワークショップをとおこなうことにより、学校と地域の交流の機会が増えました。

## ◇食資源の掘り起こし

池間の食材、郷土料理、家庭料理など、ツアーリズムの柱となるメニュー開発のきっかけができました。

## ◇民泊との連携

民泊の修学旅行生と島のおばあやこどもたちが一緒に話し合い、畑体験をして、お昼を食べることで、食をテーマに交流ができました。また、雨プロジェクトとして準備した民具見学の昔暮らしツアー、民具づくりなど、体験プログラム開発のきっかけになりました。



## 今後の活動について

きっかけづくり、基礎づくりの一年を経て、二年目は、さらに具体的な成果に向けて動き出します。4回のワークショップで得られたことを、ひとつひとつカタチにしていきたいと考えています。

## ワークショップの成果から3つのプログラムへ

4回のワークショップで得られた3つのキーワード、「自然と環境」「池間の食とお弁当」「池間の畑再生」から、3つのプログラムの実現に向けて活動していきます。

### ○エコツアーガイドの養成

池間島の自然、植物や生き物を観光客に紹介するエコツアーガイドをプロレベルで養成します。

### ○いけま島弁当

池間島の畑と海からとれる食材でつくる、お弁当の商品開発。そして漁協と連携し、売れる仕組みを考えます。

### ○池間の畑の再生プロジェクト

池間の地大豆が見つかりました！今年、地大豆の栽培をはじめます。池間の大豆を主役に、豆腐と味噌作りのワークショップも開催。将来的には、池間の麦の自家栽培も実現し、池間ブランド味噌の特産化をめざします。

### めざすのは

売れるしくみや

雇用の創出。

みんなで

つくりますよう

島の未来を！





### 第三回ワークショップ

#### 池間自慢の伝統料理で

#### いけまのイケ弁をつくってみよう！

11月1日に行われた3回目のワークショップのテーマは「食」。日本の伝統的な郷土食にこだわり、地域のこどもたちと味噌作りに取り組んでいる子どもも交流センター副館長の山田由美子さんを迎え、池間島で昔から食べられていた伝統料理を中心にお弁当を作ってみようという試みです。

朝早くからセンターには、おばあやお母さんたちが腕によりをかけた料理が届けられ、テーブルいっぱいには並べられました。

参加してくれたのは、池間小中学校の生徒たちとおばあ、おじい、お母さんたち合わせて45名ほど。いつものようにグループにわかれ、それぞれ売れるイケ弁を目指します。

**誰が、いくらで、どんな時に買うのか、ターゲットとコンセプトを設定し、弁当箱を選ぶところからスタートです。**

お弁当の内容については、栄養のバランスにこだわるおばあ、と、いろいろ好きなものを中心にしたこどもたちの間で意見の対立も見られました。

最後は人気投票！優勝チームには豪華賞品を！という予定だったのですが、票は分散して勝負がつかず・・・どの料理もおいしそうなのですから、当然といえば当然の結果ではありません。



料理は池間の宝！



おいしいイケ弁試食会



## 池間島まるごと暮らしのミュージアム

### 第四回ワークショップ じょーじょーはいんかい！

#### くおイモと池間の深い関係く

#### 修学旅行生と一緒に、おイモを植えよう！

#### 畑で、池間の昔くはんを食べてみよう！

24年度最後のワークショップは、年が明けた1月26日におこなわれました。今回は、民泊で池間島に滞在している大阪の高校生と一緒に、畑にサツマイモを植えようという試みです。

まず、池間島のことをあまり知らない高校生と、これまでのワークショップで得たことを共有するために、「はじめの話し合い」を持ちました。ここでは、おばあたちから、池間島では昔からどんなものが食べられていたかを聞き、大阪の高校生が日頃どんな食事をしているか話してもらいました。

話し合いの後はいよいよ畑へ。池間では主食が**おイモ**だったこと、**おイモは葉っぱも茎も立派な食材**になることを胸に、畑でおイモを植えます。

そしてお昼は、**イモごはん**と**んぎーあいじゅう**、**アーサ汁**。おイモを使い切る昔ごはんです。おいしい！という生徒、慣れない食事にとまどう生徒、反応はさまざまでしたが、食べ物を自分で作るということ、作ったものを丸ごと食べるということを考えるきっかけになったようです。植えたおイモは次の修学旅行生たちのお昼ごはんになると告げると、うれしそうな、恥ずかしそうな笑顔がこぼれました。



簡単そうに見えて実は・・・



おイモはあますとこないさねー

## 第一回ワークショップ

昔のイーヌブーと池間島の暮らしを学び、  
こんな池間島にしたい！をみんなで考えた。

平成24年7月14日、池間島総合離島センターで第一回のワークショップをおこないました。池間島のみなさんと池間小中学校の生徒たち、合わせて53名の参加者が集い、「こんな池間島にしたい！イーヌブーと池間島の暮らし」をテーマに話し合いをしました。

まず、埋め立てられる前のイーヌブーの様子をおじいやおばあから聞き、次に、イーヌブーと暮らしの今をこどもたちの立場から話してもらいました。そして、こどもたちが大人になって、子育てをする未来に、イーヌブーがどうあってほしいかを考え、それぞれのグループで出された内容を、こどもたちが発表しました。

みんなの共通した思いは、**自然豊かで、みんなで助け合い、島で仕事ができる池間島にしたい**ということ。こどもたちの多くが、将来、島で暮らすことを望んでいるということがわかりました。池間中学三年生（当時）の平良桃勢さんは、「ばあちゃんたちの話を聞いてよかった。もっと池間のことを知りたい」と、感想をのべてくれました。



考えをどんどん書いて  
どんどん貼っていく



昔のイーヌブーは、ほんとに  
豊かだったよと、おばあたち

## 池間島の暮らし、自然、食をテーマに



## 第二回ワークショップ

佐々木先生とイーヌブーへ。  
今、イーヌブーはどうなっているんだろう？

8月29日、2回目のワークショップは、琉球大学風樹館館長の佐々木健志先生と池間小中学校の生徒たちによるイーヌブー観察会から始まりました。前回のワークショップで聞いた、エビやガサミ、ウナギなどがたくさんとれた昔のイーヌブーとどう変わったのか、どう変わっていくのか、今のイーヌブーにはどんな生き物がいるのか、佐々木先生の説明を聞きながら鳥や昆虫や植物を観察しました。

その後、センターで、『池間島の自然と暮らし エコツアーリズムに向けて』をテーマに、佐々木先生からお話を伺いました。話題は島の自然の特殊性とさまざまな生き物、昔のホタル遊びやわら算にまでおよび、佐々木先生は**池間島の自然と文化はとても貴重なものであると強調**。そして、それを守っていくのは島に住む人々の責任であると訴えます。

さらに、池間島のエコツアーリズムについて、イーヌブーを利用した**環境教育、宮古馬を活用した乗馬体験とホースセラピー、ミツバチを導入した環境教育、障がい者の自然体験の場として環境整備とプログラム開発**の4つの提案がありました。

最後に、おじいやおばあから、こどものころの遊びを思い出してもらい、グループごとに『池間島の自然遊び』をまとめました。

ワークショップでは、琉球大学の学生によるマーニーのそりづくりの実演もあり、こどもたちも参加。葉っぱのおもちやづくりにも夢中で取り組んでいました。

（参加者・池間小中学校生徒と島の人々、琉大学生約60名）